

## パブリックコメントの結果について

募集期間：平成21年12月25日～平成22年1月25日

応募件数：3件

番号	応募方法	募集要件	意見等	対応
1	FAX	市内に住所がある人	<p>&lt;ねぶたの笛を小学校の授業に導入&gt;</p> <p>私個人では青森市出身なので、子どもの頃からねぶたの囃子の方に親しみがあつた。そして、弘前市に住んで12年。ねぶたにも参加し、青森のねぶたと両方参加したからお互いの違いの良さがわかるのですが、ねぶたこそ伝統の深い、地域によって作られる地域を結ぶ祭りだと思っている。</p> <p>子どもが幼稚園の時にねぶた囃子同好会があり参加していた。しかし大人になってから覚えるにはとても時間がかかる。そして小さいころから自然に耳にしていた囃子ではないので、音楽として覚えなくてはならない。その中で、小学校の時学校で笛を教えてもらったというお母さんがいて、20年ぶりに久しぶりにやったけど、指が勝手に覚えているもんだね。と言っていた。</p> <p>実は、青森市の小学校でねぶたの笛を全校でやっていて、全校朝会で毎週やったという友人もいる。マイ笛を持っていて、そのころは何も感じなかったけど、今県外に出たからこそ、地元の祭りを改めて誇りにもてるし、地元の祭りの囃子ができるのはうれしいと言っていた。</p> <p>もし、授業の中で、地元の人を呼んで笛の練習をすれば、地域ともつながることができるし、子どもたちが祭りに参加することもできる。高学年が覚えれば、それを中学年や低学年（は指が届かないので、太鼓や鐘でもいいかな）に教えあって、異年齢で交流することもできる。何より、その子たちが小さい頃から祭りに参加していたのなら、いずれは祭りを作る側になっていくのではないか。もし大人になって、県外に出たとして、自分の特技として笛を演奏したのなら、ねぶたを広げることにもつながるのではないか？など利点がとても多いと思う。</p> <p>弘前ならではの、誇りある授業があってもいいと母として思う。ちなみに娘は自主的に覚えたいと、友達同士で教えあって、小学2年で1週間で覚えた。今年は祭りに囃子で参加してみたいと楽しみにしている。</p>	<p>子どもの頃から郷土の祭りに親しみ、それが受け継がれていくことは素晴らしいことだと思います。特に、ねぶた祭りは、全国的に有名であるとともに、身近な地域やコミュニティの特性が活かされた祭りであることから、小学校では、ねぶた集会を開催しているところが少なくありません。その多くは、地域の方々をゲストティーチャーとして招き、子どもたちの手で太鼓や囃子の練習、ねぶたの制作から運行まで取り組んでいます。また、これらの活動が異年齢集団で行われ、互いに教え合いながら郷土の誇りが受け継がれています。</p> <p>また、地域のねぶた団体では熱心に囃子の練習会が開かれており、市の事業の観光館でのねぶた囃子やねぶた絵制作の講習会にも多くの方々が参加しています。</p> <p>各小学校では、総合的な学習の時間・特別活動・行事など、独自の裁量により創意工夫して作成した教育計画により実施しています。そうしたことから市教育委員会としては市内の全小学校に対して一律に授業として導入するよう求めることはできませんが、ねぶた囃子など郷土愛を育む教育活動の大切さを受け止め、各学校を支援してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（担当：教育委員会指導課）</p>

番号	応募方法	募集要件	意見等	対応
2	FAX	市内に住所がある人	<p>&lt;保育カウンセリング導入&gt;</p> <p>「スクールカウンセリング」は耳にしたことがあり、最近ではいろいろな学校で導入されるようになった。でも、「小1プロブレム」など聞くように、小学校からでは遅い気がします。私は子どもを生む前は、保育園で働き、今は幼稚園で働いています。だからこそ、幼児期から先生以外の第三者が加わり気になる子供や親のケアをすることは大切だと思います。というより幼児期に第三者が入らないために「小1プロブレム」などが起こってくるのだと思います。</p> <p>県内は、保育園も幼稚園も私立が多いのが現状です。だから、独自の教育、やり方がとても多く、何より経営的なことから若い先生だけでやっているところも少なくありません。子どもを生んだことがない先生だけで成り立っているところもあります。すると、子どもを見るだけで精一杯であったり、何より親からの相談のとき経験から来るものではないので、親を支えきれないこともあります。(私自身も独身のときそうでした) 貧乏な県で親は、経済的なゆとりがなく、イライラで子どもにも影響しているのも現状です。そして、保育園・幼稚園は経営的なことからぎりぎりの先生たちの人数でやっている研修も出ることできません。だから新しい情報が得られず、発達障害など知らない先生も現実少なくないのです。すると、どうして子どもが扱いにくいのかと悩んで辞めていく先生もいるのです。</p> <p>「保育カウンセリング」は、スクールカウンセリングとは違い、子ども直接ではなく、その背景の親や先生たちを支援していくのが役割となっています。実は、私はある短期大学で「教育カウンセリング」という教育者のための勉強会があり参加しています。そして、その中の幼児にかかわる先生たちで「保育カウンセリング研究会」というのを作り、保育カウンセリングを推進しようと全国的にがんばっている大学の先生を招いて情報公開をしながら勉強会をしています。</p> <p>弘前市が「子育てに力を入れている」というモデルになり、幼児期の子どもたちが安定した生活ができるように幼稚園・保育園を支えていくのはどうでしょうか。「子どもの笑顔を守るためには、それを支えている親や先生たちを支援していかなければいけない」と私は確信しています。弘前市で子どもを3人育てている親として教育者として将来を支える子供たちに幼児期からの安定した生活を望みます。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもの健やかな育ちを保障するためには、親及び保育士等の支援が必須であると考えます。</p> <p>「保育カウンセラー」には、文部科学省で進めている臨床心理士を資格要件とするものと、全国私立保育園連盟が行っている保育士を対象とした養成講座の受講を要件としているものなどがあると伺っております。</p> <p>本計画では、保育所については「基本目標1地域における子育て支援 保育サービスの充実」の具体的施策として、「保育士等の資質の向上」を掲げており、保育士をはじめ、保育に従事する全ての職員の資質向上を図るため、各種研修に積極的かつ主体的に参画できるような環境づくりに努めるとともに、関係機関等が実施する研修について、市内各施設に対する情報提供を行うこととしております。</p> <p>したがって、「保育カウンセリング」につきましては、保育活動により一層専門的な知識と経験を必要とする側面があることから、保育士等の資質向上の一環として対応してまいります。</p> <p>(担当：児童家庭課)</p> <p>「小1プロブレム」の問題については、今年度の市教委主催「幼稚園教育研修講座」で、私立幼稚園や小学校教員にも参加を呼びかけ、「よりよい幼・保・小の連携の在り方」をテーマに研修を行いました。また、市教委主催「教育講演会」は、市内各幼稚園および保育所(園)の他、保護者や一般の方々にもご案内し、「発達障害の理解と支</p>

				<p>援」と題して中央講師による講演を行いました。 なお、発達障害については、和徳幼稚園ことばの教室が、発達に課題がある幼児の保護者の相談に応じております。</p> <p>また、私立幼稚園教員の研修の充実のために、私立幼稚園連合会研修事業補助金による支援も行っております。</p> <p>今後も子どもたちの健やかな成長のため、教員研修や保護者の子育てに対する支援の充実を図ってまいります。</p> <p>(担当：教育委員会教育研究所)</p>
--	--	--	--	---

番号	応募方法	募集要件	意見等	対応
3	FAX	市内に住所がある人	<p>&lt;自由に集える、情報の常設公開場設置&gt;</p> <p>今年度、県の家庭教育次世代セミナーというのに参加し、「ママたちが企画したから役に立つ子育てフェスタ」というイベントをしました。企画趣旨は、「ママたちが自分たちで推薦できる子育て情報を集めて掲示物やチラシで公開する」というものです。今現在も子育てボードはあり、親たちはそこから情報を得ています。が、場所によっては、子育てボードが見えず来場所にあったり、そこしか情報を公開する場所がないのであまりに多すぎて氾濫してるときもあります。(子育てボードを管理している方はそれでもプライベートな時間を使い、かなり頑張っているのですが・・・)</p> <p>イベントをした後にアンケートをとり、子育て情報は何かから得ていますか?ということでは口コミが圧倒的に多かったのです。私たちはそのことを予想した上で、口コミで情報をもらえない人や子育てボードさえ知らない人のために何かできないかということから始めました。そして、そのアンケートでもそのときのイベントのように、気軽に行ける常設情報公開場があればいいということが一番に要望としてありました。イベントをしたからこそ、確実に親子は自由にいける大きな情報常設展示場を必要としています。そして、参加した中には、保育士や助産師や子どもに直接関わる方も何人か来ていました。「横のつながりがないために、親子に子育て情報を訪ねられても答えられないので、市内にどんな子育て支援があるのか知りたくて来ました。」ということでした。子どもに直接関わる職種でありながら、本当に横のつながりがなく、情報交換もできないのです。このイベントを開催したときに、個人的なレベルでしたが、横のつながりをほんの少しでしたが結びつけられたのも大きなことでした。</p> <p>また、私自身NPO法人にも2つ関わっているのですが、仕事を持ちながら地域のために自分たちで何かをしようとNPOを立ち上げ頑張っている人がたくさんいます。そして企画を立てイベントをしたりしていますが、情報の拠点がないために(子育てボードは子育てに関わるものしか掲示が許されていません)支援や情報を求めている人と活動している人とが結びついていないのです。</p> <p>青森市には、アピオがあり日曜日でもはいいいをする子どもを自由に遊ばせる場所と情報を得る場所があります。弘前市にもアピオとアウガの5階のように市民が情報を得られるためにいつでも自由に集える場所があれば、親子から学生から老人まで自然に交流ができていいと思います。そのためだけにわざわざ行くというのではなく、いつでも気軽に立ち寄れるそんな場所がほしいです。そして、NPO法人で頑張っている人たちが、活動を広げられるために情報提供をできる場所を確保してください。</p>	<p>当市では、現在、3か所の私立保育所への業務委託のほか、3か所の公立保育所で地域子育て支援センターを実施しております。</p> <p>その事業の一環として保健センター内のほか、普段の生活に密着した場所として市内4箇所のスーパーマーケットに子育て情報ボードを設置運営しております。また、これとは別に市民参画センターでも子育てに関する情報ボードを設置するなど、市内の広い範囲で子育てに関する情報提供に便宜を図っております。</p> <p>本計画においては、「基本目標1地域における子育て支援 家庭での保育を対象とした子育て支援」の中で「情報提供に関する研究・検討」や「地域子育て支援センターの充実」を掲げており、今後も既存の子育て情報ボードなどの改善・充実に努めるとともに、市をはじめ公的機関が実施する子育て支援情報に加え、地域や民間団体・グループが実施する子育て支援情報を含めた情報の一元化など、利用者の立場に立った情報収集、提供の方法について研究・検討します。</p> <p>(担当：児童家庭課)</p>